

採点に当たり最初に感じたのは、回を重ねるごとにレベルアップしているということである。初回試験より見送っていた金賞受領者が選出されたのも、その結果であろう。

毎回この総括で書いているが、試験問題をよく読まずに作品を作成したと思われるものが、未だに見受けられる。指定されているフォルダ名やファイル名、ファイル形式をよく確認して提出して頂きたい。特に、指定されている作品点数が足りないものに関しては、表現されていない部分の採点ができないため、採点対象外とせざるを得なかった。

基礎課題においては、大きな間違いはなかったものの、建具枠見附、天井の梁、システムキッチンの形状など細かな部分でのモデリングミスが目についた。使用ソフトによっては、出題課題の形状に合わせてのモデリングは難しいかもしれないが、この試験程度のモデリング技術は、身に着けるようにして欲しい。また、建具デザイン、家具の扉デザインなどもインテリアイメージを表現するうえで重要だということを忘れずに力を注いで頂きたい。

応用課題では、アメリカンカントリーというテーマが、インテリア表現だけでなく提案書のタイトル文字や背景、イラストなども含めてインテリアスタイルに合致していないものがあつた。オーナーのライフスタイルやインテリアコーディネーターからの要望事項を意識していることは、インテリアパースのなかに垣間見られるが、パースアングルを意識したディスプレイバランスなど、見せ方にもう一つ工夫が欲しい。

受賞作品の選考に当たり、インテリアパースやイメージ画像だけでなく、提案書全体からアメリカンカントリーというインテリアスタイルが表現されているものを対象とした。金賞を受賞した作品は過去の受賞作品を超えるインパクトを持ち、アメリカンカントリーのイメージが提案書全体から感じられるものとなっている。配置された人の形が不自然な感じを与えるものの、提案書全体の仕上がりがそれをカバーして余りあるものがあつた。銀賞作品の2点は、提案書の細部までインテリアスタイルの統一を意識してまとめられている。銅賞作品は、パース、イメージ画像、レイアウトなど申し分ないものの、タイトルなどにもう少し配慮がほしかった。

検定試験であれば、基礎課題と応用課題で明示された要求事項を満たすことは当然であろう。自分勝手な解釈をせず、正確に問題を理解したうえで、課題に取り組んでいただき、インテリアイメージの統一がなされた、より質の高い提案書を期待している。